



はあもにい

令和7年10月1日発行
●社会医療法人創和会広報誌はあもにい / 発行 理事長 重井文博

目指しています！ 無床クリニックへの転換

幸町記念病院 院長 田中 信一郎

「はあもにい（令和7年5月号）」において、令和7年度の幸町記念病院の方針を「厳しい医療環境が吹き荒れている中、三祥会 幸町記念病院は創和会と本年10月に合併することになりました。合併をチャンスと捉えて、グループ内での人事交流や医療連携を強化して、現在の医療レベルを維持することはもとより、より良い透析医療を提供することを目指して参ります。」と述べさせていただきました。

この度、10月1日をもって創和会への吸収合併の手続きが完了し、メンバーの一員となりました。創和会の医療介護体制は、しげい病院と重井医学研究所附属病院の二つの総合病院を基幹として、しげい腎クリニック早島や4つの訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所を配置しています。このような体制の中での当院の担うべき業務は、外来と入院診療を担ってきたこれまでの病院組織から総合病院と連携を密にして外来診療に特化すること、つまりクリニックへの転換が最適な選択肢と判断いたしました。この方針は、日本腎代替療法医療専門職推進協会などの透析医療専門領域から、「今後の透析医療について透析患者数を維持するためには、良好な医療の提供・患者の予後の改善、患者の希望に沿った医療の提供を行うことにより透析寿命の延伸がポイントとなる。そしてプロフェSSIONナジズムを持ったハイレベル



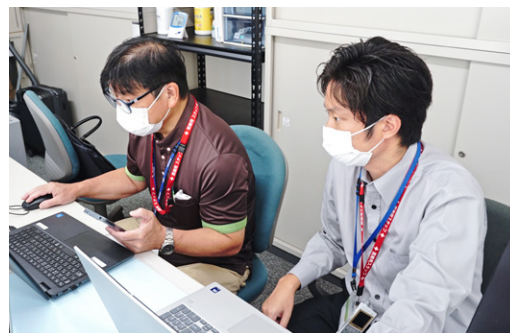
な医療従事者が中心となって医療を提供することが重要となり、透析施設の集約による専門性の向上を考慮する必要性がある。」と提唱されていることとも方向性を一にしています。

今後、当院は令和7年12月1日を目途に、病院から無床クリニックへ変換し、「幸町記念しげいクリニック」に名称を変更して、外来診療に専念して医療の質向上を図る所存です。「幸町記念しげいクリニック」の命名は、当院が岡山市幸町の地に発祥した歴史を鑑み、新たに創和会に参画して、診療領域を拡充する意思を示すものでございます。創和会内の連携事業では、維持透析患者さんのVA（内シャント）管理やADLの改善、そして地域医療連携業務の一体的運営などの取り組みを始めています。また、診療領域の面では既に実施している腎移植者フォローのみではなく生体腎移植の提供者（ドナー）の継続的管理にも取り組むことを検討しています。

現在、12月1日からのクリニックの円滑な営業開始に向けて、職員が一丸となって準備を進めております。またクリニック転換後は、当院に求められている地域のニーズに応えて、腎疾患診療の拡充や他領域の診療も視野に入れて医療を提供して参りたいと存じます。皆様からご意見やご支援を頂ければ幸いです。

創和会の仲間として！ ともに築く新たな歩み

幸町記念病院 事務長 栗原 江里



▲電子カルテ導入支援

幸町記念病院は2025年10月1日から、社会医療法人創和会の一員として新たな一歩を踏み出すこととなりました。2022年12月に創和会グループの一員になってからこれまでを振り返りますと、宮崎雅史前院長が2023年5月に急な病に倒れ、同年8月に逝去された際には、しげい病院・重井医学研究所附属病院の多くの先生方に診療を支えていただきました。2024年7月には、宮崎前院長を偲ぶ会を開催することができた事も含め、皆さんの支えに心から感謝いたします。2024年4月に田中信一郎先生が院長に就任後は、創和会グループの一員として何をを目指すべきか、未来を語りながら着実に病院の体制を立て直すことができました。

現在、日常診療におきましては、放射線技師の派遣による定期胸部レントゲン検査、夜間帯の臨床工学技士の派遣、臨床検査技師・薬剤師の迅速

な応援体制の構築など、しげい病院や重井医学研究所附属病院の職員の見えない日がない程の体制を作ることができました。また、透析患者さんのシャント管理や緊急時の手術など専門的な対応の連携体制が整ったことは、大きな安心と信頼につながっています。

そして、2025年12月からの無床クリニック転換に合わせ、基幹システムである電子カルテの統一も行います。現在は重井医学研究所附属病院、しげい腎クリニック早島のご協力のもと、システム改修に向け環境整備や職員研修を進め、着実に準備を整えております。

今後は創和会の一員として、互いの強みを活かしながら、患者さんに信頼される医療を提供してまいります。引き続きご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



▲しげい腎クリニック早島での電子カルテ研修



▲しげい病院からの応援



▲重井医学研究所附属病院からの応援

「うらじゃ 2025 輪」に参加しました！

重井医学研究所附属病院 臨床工学部 副主任 吉武 勇介

私たち 温羅★重井連 は、今年も岡山の夏を彩る「うらじゃ 2025 輪」に参加しました。踊り子 45 名・チームマネージャー 4 名が心を合わせ、4 つの演舞場と市役所筋パレードで力強い舞を披露し、沿道を埋め尽くす観客の皆さまと一体となって熱い夏を楽しむことができました。

練習の段階では「本当に本番でやり切れるのだろうか……」と心配になる場面も少なくありませんでした。しかし、いざ本番を迎えると、踊り子たちは緊張を力に変え、練習以上の笑顔と迫力ある舞を見せてくれました。特に市役所筋パレードでは、大通りを進みながら観客と心を通わせ、一緒に大きな「輪」を描くような時間となりました。真夏の太陽の下、汗を流しながらも、笑顔を絶や

さず踊り切った踊り子たちの姿は、見てくださった方々の心にも届いたのではないかと思います。

また、暑い中、多くの病院関係者の皆さまをはじめ、多方面から応援に駆けつけてくださいました。いただいた拍手や声援は私たちに大きな力を与えてくれました。この場をお借りして、ご協力・ご援助くださったすべての皆さまに心より感謝申し上げます。

私たち 温羅★重井連 は、これからも地域の方々に元気と笑顔を届けられるよう活動を続けてまいります。来年はさらにパワーアップした姿でお目にかかれるよう精進してまいりますので、引き続き変わらぬご声援をよろしくお願いいたします。



防災の日の取り組み

～災害時でも「食」の安心を届けるために～

しげい病院 栄養管理部 室長 近藤 美知子



▲非常用備蓄食品を活用した特別メニュー

9月1日の防災の日、栄養管理部では防災訓練の一環として、非常用備蓄食品を活用した特別メニューを病院給食として提供しました。今回のメニューはアルファ米を使用した山菜おこわと缶詰のポテトサラダ。実際に召し上がっていただいた方々からは、「思ったより美味しい」「高齢者には少し硬いかも」といった率直な感想が寄せられ、味や食感、量、保存状態などを確認する貴重な機会となりました。

また、毎年非常食の提供とともに恒例となっているのが、部署内で実施される「災害時想定訓練」です。震度5強の地震が発生したという想定のもと、具体的な状況を踏まえた訓練を行っています。災害時には、ライフラインの寸断や物流の停止により、通常の食事提供が困難になることが想定されます。訓練を通して食事の提供方法や衛生管理などについて確認し、災害時の対応力を高めることができました。

災害時こそ、食事は患者さんの心と体を支える大切な要素です。今後も定期的な訓練を継続し、非常時にも安心して食事を提供できる体制づくりに務めていきます。



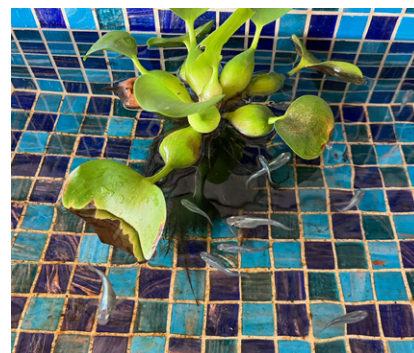
▲災害時想定訓練

仲間が増えました！

しげい腎クリニック早島 臨床工学士 田路 雄基



しげい腎クリニック早島
Instagram



▲元気なメダカたち



▲左からメダカを放流する松原院長とそれを見守る田中統括マネージャーと重井理事長

しげい腎クリニック早島が開院し10か月が経過しました。時が経つのは早いものであと2か月で開院1年を迎えます。そんな当院にメダカが新しく仲間入りしました。7月31日、理事長宅から引っ越ししてきた元気なメダカたちです。大・小様々なサイズのメダカがおり、日々成長していく姿をみて楽しんでいきます。朝・夕とクリニックスタッフがエサをあげるのですが、スタッフが近づくともみんな一斉に集まってくるエサを夢中で食べています。クリニックスタッフ一同メダカに癒やされながら仕事に励んでいます。患者さんへもメダカが仲間入りしたことを案内しています。しげい腎クリニック早島へ来院された際には元気に泳ぐメダカたちを見ていただください。クリニック広報担当もInstagramでメダカの記事を掲載しています。力作なので是非そちらの方もご覧ください。

院内「ゲーム大会'夏」と「ピラティス講座」を開催しました

重井医学研究所附属病院 事務部 課長 目黒 将志

2023年の8月に院内レクリエーション推進カンファレンスが復活して2年が経ちました。今年度は5月のバレーボール大会を皮切りに、6月にバドミントン大会、8月にゲーム大会'夏、9月にピラティスを開催しました。そして11月にはボウリング大会、12月にクリスマス会、2月にゲーム大会'冬を予定しており、多職種の交流と福利厚生の上昇を目的に精力的に活動しています。今回は8月と9月に開催したゲーム大会'夏とピラティスについてレポートします。

昨年10月に開催したゲーム大会がとても楽しかったため、これは低予算だし院内開催だし夏祭り無くなったし是非やろうとレクメンバーで盛り上がり、今回急遽開催を決定しました。参加者は15名とちょっと少なめでしたが、自費で調達したピザをつまみつつ恒例のマリオカート8で対戦。やはりとても盛り上がりました。結果は、チーム戦ではゲーム大好き男性4人組が大人げなく本気で勝ちにいき優勝。個人戦ではアイテム無しのガチンコ勝負で、「透析センターの頭文字D」こと前回王者の清水さんが、放射線部の石井さんとのデッドヒートを制して2連覇を達成。見事マリオカート王の座を防衛しました。ゲーム大会は2月にも開催予定です。清水さんの3連覇を阻止する強者は現れるのか！みなさんのご参加をお待ちしています。



▲院内ゲーム大会'夏集合写真

そして9月9日はピラティス講座を開催しました。こちらは60名と多数の参加希望があり、みなさんの美容や健康に対する高い意識が感じられます。ピラティスとは体幹を中心にインナーマッスルを鍛えて全身のバランスを整えることで姿勢

改善などに効果があるエクササイズです。講師のリハビリテーション部、平野有彩インストラクターが「まずは私からやる気を見せる！」と気合いをみなぎらせた白いタンクトップ姿で登壇し、軽妙なトークと音楽の中で全員のやる気と悲鳴を引き出しながら地味にきついエクササイズを畳み掛けていきます。仰向けの状態で骨盤の腰骨と恥骨の三角のラインと肋骨から頸を意識して床と平行にするニュートラルポジションからの、足やお尻、腹筋への容赦ない攻撃はとてもきつかったですが、終了後はとても心地よく、みんなが笑顔で大満足の1時間でした。これは年イチではもったいないので今年度中にもう一回開催したいと思います。平野さん、松下さん次回もよろしくお願いいたします！そして男性のみなさんの参加もお待ちしています。



▲平野有彩 作業療法士



▲松下拳也 理学療法士



▲ピラティス講座

妹尾小学校で防災キャンプに参加しました！

重井医学研究所附属病院 事務次長 奥村 裕介



▲参加した重井医学研究所附属病院の職員

9月6日（土）、妹尾小学校で防災キャンプが開催されました。この催しは妹尾・箕島学区の住民を対象に、防災意識の向上と地域のつながり強化を目的として行われており、当日は子どもから高齢の方まで幅広い世代の方が参加されていました。

重井医学研究所附属病院は昨年に続き、指導する立場として参加要請を受け、「応急手当」「心肺蘇生／AED」「動けない人の移動」の3つのブースを担当しました。応急手当のブースでは止血法や骨折時の固定を段ボールやタオルなど身近な資材で行う方法を紹介し、実際に体験もしてもらいました。「心肺蘇生／AED」では訓練用人形を使い、胸骨圧迫やAEDの操作を、移動のブースでは車椅子での移送や担架を使わない搬送、シーツを用いた搬送方法など、体験を通して学んでいただき

ました。

まだまだ残暑の厳しい状況ではありましたが、どのブースでも多くの方で賑わい、真剣に取り組む表情や体験を楽しむ笑顔が印象的でした。本活動を通じ、防災意識が一層高まるとともに、地域の皆さまと病院スタッフが直接交流できる貴重な機会となりました。



▲動けない人の移動

密を避けたオンライン会議で密なコミュニケーションを

創和会本部 人事部 係長補佐 松田 圭市

2020年ごろ創和会では、新型コロナウイルスの流行をきっかけにオンライン会議ツール「Zoom」を導入しました。密を避け、外部からのウイルス持ち込みを防ぐため、これまで全職員を集めて行っていた全体朝礼や研修に加え、業者との打ち合わせも、オンラインでの実施が一層推奨されるようになりました。

その後、幸町記念病院の加入やしげい腎クリニック

早島の新規開業で拠点が増えたこともあり、Zoomは法人全体の連携を支える重要なITツールとして欠かせない存在と

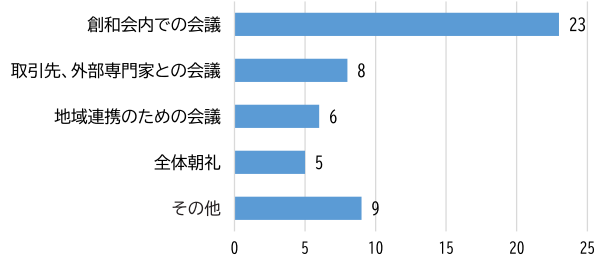


▲地域連携先とのオンライン会議の様子

なりました。会議のたびに職員が拠点間を移動する必要がなくなり、時間短縮や迅速な意思決定につながっています。さらに、介護施設など地域連携先との定期ミーティングでも活用され、お互いに忙しい中で移動時間を節約しながら顔の見える関係を保てるのは大きな利点です。Zoom利用は自然なこととなりました。

AIをはじめとした新しい技術も身近なものとなりました。今後もITツールを効果的に活用し、業務効率の改善と施設間連携をさらに深めていきます。

ある1か月のZoom利用目的



▲当会がホストとしてミーティングを主催したものを集計

津山のインフルエンサー蓬郷由希絵さんの講演会とエアロビクスのイベントを開催しました！

～テーマ「私が笑って育てた子は知的障がいに伴う自閉症児と健常児」～

はあもにい倉敷 カルチャーチーム チーフ 岡村 奈々枝

8月31日、はあもにい倉敷にて蓬郷由希絵さんを講師に迎え、子育てに関する講演会を開催しました。

蓬郷さんは、津山市のインフルエンサーで、重度知的障がいに伴う自閉症の次女と、健常児の長女を育てる母親です。フォロワー数20万人超えのInstagramで日常の育児や家族とのエピソードをユーモアたっぷりに発信し、多くの共感を集めています。自閉症児の次女の子育てに関する講演会が多くの反響を呼び、全国各地を駆け巡っておられます。

私自身も蓬郷さんの投稿を目にし、元気を貰うことが多々あったので、フォローしており、講演会を行っているのを見て、はあもにい倉敷でもぜひ開催したいと思い、お声をかけさせていただきました。講演会の予約開始と同時に申し込みが殺到し、半日で80名の枠がいっぱいになるほどの人気を目の当たりにし、蓬郷さんの人気に驚きました。

当日の講演の冒頭では、ご自身のお子さんが自閉症であるとわかったときの葛藤を率直に語られました。「明日目覚めたら普通の子どもになっているのでは」と願う日々。しかし現実が変わらず、趣味であった家族のアウトドア活動も遠のき、やり場のない気持ちに苦しんだと振り返られました。

そんな中で、「目的を伝えること」で子どもが少しずつできることを増やしていった経験を共有されました。片付ける場所を決めたり、道具の位置を示したりして環境を整える。親が先回りして手を貸すのではなく、「自分でできるようにする」ことこそが成長につながるのだという言葉は、参加者の胸に深く響きました。

また、小学校卒業時に受け取ったお子さんからの手紙や、健常児である長女の手紙を紹介してくださり、感謝と愛情にあふれた内容に会場は感動



▲講演会の様子

の涙に包まれました。

「子育ては本当に難しい。でも、楽しみながら、笑って育てることが大切」。蓬郷さんのメッセージは、多くの気づきと励ましを与えてくださいました。

講演会が終わった後は、はあもにい倉敷での開催なので、特色を出したいと思い、フィットネスチームと連携し、体育館でエアロビクスを行いました！参加されない方が多いかと思いましたが、ほとんどの方が参加され、蓬郷さんはじめ、参加者の皆さんがキラキラ笑顔で踊っていたのが目に焼き付いています。講演会の前後で、スタッフとも親しく楽しく話してくださり、蓬郷さんの人気がここにあるんだと、スタッフもみんなファンになりました。

最後に、蓬郷さんが初めての著書を出されるとのことで、お知らせいたします。『どうにかなるっちゃ 知的障がいのある自閉症児ゆいなの母の記録』子育てで心折れそうになっているすべての親・家族に、「大丈夫だよ。」と伝える希望の書。2025年9月18日発売。講演会第二弾も開催を検討中です！お楽しみに！



▲蓬郷さんとはあもにい倉敷スタッフと家族



▲体育館でエアロビクス

催し物案内

重井薬用植物園

植物園を楽しむ会

「鹿鳴草（しかなぐさ）咲く
花野を楽しむ」

日時：10月12日（日）
10：00～12：00

会場：重井薬用植物園

編集後記

●皆さん大阪万博はいかれました？10月13日までの開催だということで、多くの方がいかれていることと思います。9月は祝日もあるので、万博関係なくどこかへ旅行に行こうと思っていました。8月に本格的に計画を立てた当初は、万博に行ってそのまま関西地方を巡ろうと思っていたのですが、ホテル代が高いことや様々なチケットが取りづらいことから十分楽しめないことが予想され、断念しました。思いつきでこうしたので、見通しの甘さを痛感しました。しかし旅行は諦めず、関西がだめなら逆方向へとのことで、九州方面へ行きます。車で行くのでかなり体力はいると思いますが、道の駅やSAに立ち寄りつつ、のんびり楽しんでこようと思います。最近天気が悪い日が多いので、雨が降らないことを祈っています。（KM）

●この夏、私が数年前にあるコラムに語った夢「いつか息子たちと一緒にシュノーケリングをしたい！」がついに実現！……のはずが、まさかのうちの子目が悪い問題が発覚。なんとレンタルの子供用シュノーケリングゴーグルには度付きがないことが判明。それでも魚と泳ぎたい一心で探した結果、沖縄本島・伊計島の大泊ビーチは浅瀬でも魚が見られるとの情報をゲット。子供たちは水泳用の度付きゴーグルで参戦！噂通り浅瀬でも魚がたくさん！魚肉ソーセージを撒けば魚に囲まれ、水族館の中に入ったみたい！子供たちも大興奮！長年の夢が叶い、親子で最高の夏になりました。大泊ビーチ、おすすめです！沖縄は10月でも泳げるそうですよ♡（YS）

EAP相談室コラム

「認知的不協和とは ～行動経済学を役立てよう その6～」

ジャパンEAPシステムズEAP相談室

●「お酒を飲み過ぎです」と言われたら……

2024年2月、厚生労働省は我が国初となる、「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」を公開したのですが、「生活習慣病のリスクを高める1日あたりの飲酒量は男性で40g以上、女性で20g以上（日本酒1合＝22g）」などと例示されたため、酒好きの人たちからは、「それでは少なすぎる」「個人差もあるんだから」と反発や戸惑いの声が上がりました。中には、「全く気にしない」「みんな飲んでるし」といった反応もありました。飲食店の店主は、「1人3杯くらいが平均的な飲み方。ビール1杯では店が潰れてしまう」と表情を曇らせていました。こういった反応を、「認知的不協和」と呼びます。

●認知的不協和とは

認知的不協和(cognitive dissonance)とは、自分の思考や行動と矛盾する事柄を認知した時に、不快感や居心地の悪さ、不安感などを抱く状態を指します。

「自分は酒好きである ⇔ 国は酒を減らせと言っている」という矛盾があるわけですね。

「そうか、健康に悪いなら減らそう」「これを機会に酒をやめよう」というのはこの矛盾を解消する一つの方法です。しかし自分の好きなものを減らすのも、なじみのある生活習慣を変えるのも大変です。「行動経済学その4」で、私たちは動物的な心(象)と分析的な心(象使い)を持っていると紹介しました。「象の心」はこんな風に考えます。

・「個人差はある」「自分は大丈夫」(自信過剰バイアス、楽観性バイアス、正常性バイアス)

今まで飲んできて問題ないから、他人は知らないけど「自分は大丈夫」と考えます。

・「まったく気にしない」(現在バイアス)

今は健康だからと言って将来の保証はないのですが、「今がいい」と考えます。

・「みんな飲んでるし」(同調バイアス)

まわりを見回せば誰も気にせず飲んでいます。「みんなと一緒にいよう」と考えます。

・「少なすぎる」「店が潰れてしまう」(現状維持バイアス)

今までの量で問題なかったんだからいいじゃないかと考えたいですね。店主は酒に頼らない業態に変えようとはまでは考えません。「とりあえず今まで通りで」と願うわけです。

●「象使い」の違和感に耳を傾ける

このように考えることでとりあえず自分の中での矛盾は解消します。しかし実はモヤモヤが残っていることが多いのです。「象使い」が、「あれ、なんか変だな」と気づいているのですが、「象」のパワーを押し切るのはなかなか大変。でも、大切なのは「象使い」の違和感に耳を傾け、より建設的な解決を探していくことではないでしょうか。

執筆者：米沢 宏（ジャパンEAPシステムズ顧問医）

参 考：「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」を公表します
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_37908.html

※社会医療法人創和会は職員の心の相談窓口として、ジャパンEAPシステムズと契約しています。相談はお気軽に、電話やメールで。

社会医療法人 創和会

- しげい病院
- 重井医学研究所附属病院
- しげい腎クリニック早島
- 幸町記念病院

- 倉敷しげい訪問看護ステーション
- 倉敷しげい居宅介護支援事業所
- 岡山しげい訪問看護ステーション
- 岡山しげい居宅介護支援事業所

- 重井医学研究所
- 健康増進施設 はあもにい倉敷
- 重井薬用植物園
- 倉敷昆虫館

WEB版はこちら。
バックナンバーもご覧ください。➡

